

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和3年6月20日発行

できることから始めよう

校長 齋藤 光夫

学習指導要領の前文には、次のように示されています。

これからの学校には、教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手となる**ことができるようにすることが求められる。

持続可能な社会の創り手とはどういうことなのでしょう。

SDGs (エスディーゼズ「持続可能な開発目標」)という言葉に至る所で目にしたり、聞いたりするようになりました。

この目標は、国連加盟 193 国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために掲げたもので、すでに 5 年が経過しています。「誰一人取り残さない社会の実現」に向け、「できることから始める」を合い言葉に、世界中で取り組まれている活動です。

私たちは、自分を大切にしています。子どもたちにも自分を大切にしてほしいと願っています。しかしながら、「自分だけ」がよくても、周りの社会が機能しなければ、もっと広く考え、地球全体が不安定なら、結果として「自分」の存在も危うくなります。

今月の全校朝会では、目標 6 (安全な水とトイレを世界中に) の話をしました。

トイレが整備されていない国はまだたくさんあるといいます。一方で日本は、世界の中でもトイレ環境は圧倒的に優れています。この安心感や便利さを「日本に生まれてよかった」で終わらせるのではなく、不衛生な環境での生活で命を落とす人もいることを知って世界の人々の健康安全を願う意識をもつことや、地球規模で水の大切さを考えて身近な水質保全に向け行動できることは、持続可能な社会を創る上で欠くことができません。

指導要領に示されたように、今、学校における様々な学びにおいて、SDGs と結び付けて考え、理解し、主体的に行動できるようにしていくことが求められているのです。

例に挙げた目標 6 の中には、2020 年までに水に関連する生態系の保護・回復を目指すという具体的なターゲットが示されていました。

佐渡島は、トキを含め多様な生物との共存を実現しました。目標 6 の達成に一步前進です。また、目標 14 (海の豊かさを守ろう) や目標 15 (陸の豊かさを守ろう) の目標にもつながります。

一人一人ができることから始めることが大切です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

